

# 上田 ゆきこ



の議会活動レポート **Vol.38** 2016年5月21日

無所属

mail : [info@uedayukiko.jp](mailto:info@uedayukiko.jp) URL <http://www.uedayukiko.jp>  
ぶんきょう未来 TEL/FAX 03-3942-4888 〒112-0003 文京区春日1-16-21-シビックセンター22階

## 10年目の議員活動に向けて

2007年に初当選してから、早いもので3期9年となり、5月から10年目がスタートしました。

昨年は会派副幹事長や決算委員長など役職もさせていただくなど、より責任ある仕事をさせていただいています。

この節目に「①持続可能性、②多様性、③地域密着の政策作り」の初心に立ち返って、若者として、女性として、一緒に地域で生活するご近所さんとして、政策の実現に取り組みます。

特に、厚生委員として、「地域包括ケアシステム」の構築など、高齢者も高齢者の家族も安心できる地域づくり。子ども子育て支援調査特別委員として、待機児童対策の推進や幼児教育・保育の質の充実。議会運営委員として、議会としての合意形成に貢献できるよう努力してまいります。

## インターン生と一緒に作りました。

文京区議会議員 上田ゆきこ事務所では年2回、学生インターンを受け入れています。

それは私自身が地方政治を知るきっかけになったのが、大学2年生のときに経験した議員インターンシップだったからです。少しずつでも若い人たちに地方政治の現場を知ってほしい、自分たちの生活と政治参加の関係を感じてほしい、と思っています。

今回は18歳と19歳の女子学生2人が来てくれました。今回のレポートは冬期インターンシップに来ている学生2人とともに編集しました。彼女たちが「18歳選挙権」「防災」についてコラムをまとめてくれています。

## 18歳選挙権、いよいよ。

上田ゆきこは若者の政治参加を促進するために、区政セミナー(2013年5月)に若者の投票率向上をめざす学生団体「i-vote」の代表を呼び、駅前投票所や学内投票所の設置など、若者の投票率向上に向けた方策について区選挙管理委員会事務局長に提案してもらいました。

また、議会において政治リテラシー教育の充実を訴えてきました。昨年は、「中学生の区の計画策定等への参加等のアクティブラーニング」を提案しています。

今年度は「18歳選挙権に伴うシティズンシップ啓発」として予算が拡充されています。せっかく投票できる年齢になった18歳・19歳には、自分たちの将来のために、できれば、短期的なバラマキではなく、持続可能性を重視した政策を選んでほしいです。

### 毎年恒例 上田ゆきこ 区政セミナーのご案内

昨年の東京大学公共政策大学院の大人気授業!

#### 実践!交渉学入門

～いかに合意形成を図るか～

日時: 5月23日(月) 19:00～21:00

講師: 松浦正浩 明治大学公共政策大学院教授  
(前東京大学公共政策大学院特任准教授)

場所: 文京シビックセンター 4階 会議室 A

参加費無料



公園再整備や再開発等における区民意見の取り入れ(てもらい)方の参考に!

### ぶんきょう未来会派セミナーのご案内

#### 文京区の子どものための 今を知っていますか

～子どもの貧困、  
児童虐待と向き合う～

日時: 5月25日(水) 18:30～20:30

講師: 杉山春氏 (ルポライター)

鈴木秀洋氏 (日大危機管理学部准教授・前文京区  
男女協働子ども家庭支援センター担当課長)

場所: 文京シビックセンター 4階 ホール

参加費無料



### コラム

#### 18歳選挙権～初めての選挙に向けて～

今年度、選挙権の年齢が18歳までに引き下げられ、未成年の政治参加へ向けた活動が徐々に広がり始めています。ですが、ほとんどの未成年者にとっては初めての選挙なので、難しいことばかりかもしれません。若者の投票意欲を高めるためにも、インターネット投票などの気軽に投票できる制度等を整えていくべきではないか、と私は考えています。

インターン生 浜田さん

# 改めて備えたい、 災害対策

東日本大震災から5年たち、地域防災への関心が少しずつ薄れていると言われていましたが、今年に入り、台湾や熊本などの地震が起こったこと

で、災害対策の重要性が改めて指摘されています。

この機会に職場や自宅の耐震性や物資の備蓄状況を再点検したり、近隣の訓練等に参加して防災知識を再確認することをおすすめします。年4回の文京区総合防災訓練をはじめとして、区内各地で避難所や町会ごとの訓練が開かれています。

## 避難所運営 模擬体験ゲームのススメ



3月13日の江戸川橋体育館避難所運営訓練では本部班の一員として避難所運営模擬体験ゲームを体験しました。

矢継ぎ早に読み上げられる報告を書き止めるのが精いっぱい、すべてを的確に指示できませんでした。後から考えれば、まず、大きく書き留めて本部班全員で情報と対応状況を共有し、解決策を多角的に考えられるようにすべきでした。すぐそばにあったホワイトボードに気づかなかったのも悔やまれます。消防団の方や民生委員の方たちと対応をその場で判断しなければならず、わずか20~30分のゲームでも精神的にぐったり。内容の濃い訓練は大変でしたが気づきも多く、次に向けてもっとしっかり準備しようと強く思いました。

## 訓練も大事、振り返りも大事。

訓練をするといろんな気づきがあります。それをきちんと振り返り、みんなと共有する作業は訓練の効果を倍にしたいと思います。

## 遠くの親戚より近くの他人。

普段は仕事や趣味のコミュニティでの付き合いが多くなりがちですが、災害が起こったときは物理的な距離が近いコミュニティが重要になります。ご近所づきあいや地域の行事に参加することが万一のときの対策として一番効果があるかもしれません。

## 熊本県宇城市に ボランティアに行ってきました。

4月22日夜~24日、友人と熊本にボランティアに行ってきました。

まだボランティアセンターの立ち上げが始まりつつある段階で、県外からのボランティアのニーズがわからず、迷いましたが、友人の伝手で熊本市より県南の宇城市の公民館長のお手伝いができるということで鹿児島空港経由で行ってきました。

当初は被災民家の片づけのお手伝いをする予定でしたが、前震、本震、そして、続く余震のせいで家屋の被害がひどく断念し、避難所の炊き出しのお手伝いをさせていただきました。

現地で特に印象深かったのは、崩壊した宇土市役所。防災センターとしての公共施設、特に市役所が機能しないと復興自体が遅れる可能性があるため、優先的に耐震化が必要だと痛感しました。

家も道も避難所も公共施設も大変な被災状況で、ショックで、とても写真を撮る気になれず、帰りに思い出して撮ったのは道路の写真2枚だけです。



さらに詳しい内容はブログに載せておきましたので、ご覧ください。

[ブログはこちら→](#)



## コラム

## 東日本大震災を経験して

私は、福島県いわき市出身です。2011年3月11日に起きた、東日本大震災を経験しました。当時中学2年生だった私は、今まで経験したことのない大きな地震がとても怖かったことを覚えています。家族とも何時間か合流することが出来ず、不安でした。それから何日も水や電気が止まったり、食料を確保することが困難だったりしてとても大変でした。また、近隣の町での原発事故が重なり、風評被害にも苦しみました。

「災害は忘れたころにやってくる」と言われます。いつ、どこで何をしているときに来るかわかりません。震災から5年経つ今、防災について考え直すいい機会ではないでしょうか。会社や学校からの避難経路を確認する、家の近くの避難所を確認するといったことから始めてみると思います。いざという時、そのことが助けになるかもしれません。

インターン生 軍司さん